

■超音波検査室

◆亀田総合病院 超音波検査室、亀田クリニック 超音波検査室では、腹部領域、乳腺領域、頸部領域、血管領域など様々な領域の超音波検査実施している。また亀田健康管理センターでは、超音波検査のほか生理機能検査、採血業務を実施している。保有する超音波診断装置は、亀田総合病院 5 台、亀田クリニック 8 台、健康管理センター4 台の計 17 台で年間約 38,000 件の超音波検査を実施している。また、学会活動や講習会の参加を奨励しスキルアップに努めている。

1. 2021 年度の目標及び方針

1) 財務の視点

- ア) ドプラ検査件数の増加に努める。
- イ) 保有する医療機器を見直し無駄な機器を廃棄し、経費削減に努める。

2) 顧客の視点

- ア) 痔瘻ドックを導入し、痔臓癌の早期発見に努める

3) 内部プロセスの視点

- ア) SWE（シェアウエーブエラストグラフィ）を用いた肝硬度測定件数の増加に努める。

4) 学習と成長の視点

- ア) 院内必須研修などの院内研修に積極的に参加する。
- イ) 学会発表に積極的に取り組む。

2. 2020 年度の評価

1) 財務の視点

- ア) 診療材料費の見直しで経費削減に努めたが、コロナ対策費の関係で経費削減に繋げることができなかった。

2) 顧客の視点

- ア) 新たに痔瘻ドックの導入を目指したが、各部門との調整に時間がかかり実施には至らなかった。次年度の運用開始を目指し継続目標とする。
- イ) 消化器内科や初期研修医の研修受け入れを積極的に取り組み、6 名の研修を受け入れた。
- ウ) 血管ドプラ検査の検査数向上に努め、前年比 116%に向上した。
- エ) 患者満足度向上のため、接遇研修に参加し接遇レベルの向上を計った。

3) 内部プロセスの視点

- ア) タスクシフティングを視野に入れた業務改善をめざしたが、改善には至らなかった。今後も引き続き業務改善に努める。
- イ) COVID-19 に対する感染管理の徹底に努めた。部署内からの感染者発生はなかった。

4) 学習と成長の視点

- ア) 学会発表・学会参加を積極的に行う
 - ・ COVID-19 の影響もあり発表は Web 開催の 1 例のみであった。
 - ・ 部署内勉強会、乳腺病理合同症例検討会などを 24 回／年実施した。
- イ) 役職者は RM 研修、 コーチング研修を必須
 - ・ 役職者 1 名が RM 研修会に参加し RM となった。

3. 年間活動内容

1) 実績 (2021年3月31日時)

- ・2020年度 事業所別超音波件数 (表1)
- ・スタッフ：臨床検査技師22名、准看護師8名
- ・日本超音波学会認定 超音波検査士：
腹部領域13名、体表領域9名、泌尿器領域2名、健診領域2名
- ・日本脳神経超音波学会認定 脳神経超音波検査士：1名

4. 学術関係

1) 学会発表

発表者：北浦幸一

演台名：化膿性門脈炎をきたした上行結腸憩室炎の1例

学会名：第45回 日本超音波検査学会学術集会 WEB開催

開催日：2020年12月19日

2) 執筆

Medical Technology

消化管エコーの基礎とテクニック

大腸・小腸疾患のエコー評価 大腸・小腸腫瘍 945-948 医歯薬出版 2020 Vol148 No9

北浦幸一

文責：小宮 雅明

2020 年度 事業所別超音波検査件数

表 1

亀田クリニック	部位	検査件数
	腹部	8,802
	乳腺	6,770
	甲状腺	1,426
	その他	297
	頚動脈ドブラ	473
	上腕ドブラ (動・静脈)	14
	下肢ドブラ (動・静脈)	367
	腹部ドブラ (動・静脈)	125
	造影超音波	113
	甲状腺穿刺	133
	拘束帯検査	1
	合計	18,521
	亀田総合病院	部位
腹部		2,589
乳腺		367
甲状腺		179
その他		93
頚動脈ドブラ		638
上腕ドブラ (動・静脈)		55
下肢ドブラ (動・静脈)		929
腹部ドブラ (動・静脈)		62
ポータブル		270
造影超音波		14
肝生検		17
肝腫瘍生検		14
RFA		13
PTGBA・PTGBD・PTBD		28
膿瘍穿刺・ドレナージ		9
甲状腺穿刺		16
その他エコー下穿刺		32
拘束帯検査		44
拘束帯 肝生検		4
拘束帯 PTGBA・PTGBD		20
拘束帯 膿瘍穿刺・ドレナージ		9
合計		5,402
ドック	部位	検査件数
	腹部	8,107
	乳腺	2,710
	甲状腺	252
	合計	11,069
合計		34,992